

3月28日に開催された「IoT&H/W BIZ DAY by ASCII STARTUP」でシーオス代表松島が参加した「SORACOM × アウトドア・スポーツでどんなIoTができる？」セッションの様子が、ASCII.jpに掲載されました。

ソラコム、ソニー、シーオス、SAPの4社が徹底議論
IoTの可能性、SORACOM×スポーツでどんな未来が訪れる？
<http://ascii.jp/elem/000/001/142/1142569/>

松島講演内容

IoTの可能性、SORACOM×アウトドア・スポーツで どんな未来が訪れる？

「IoT&H/W BIZ DAY by ASCII STARTUP」（2016年3月開催／主催：アスキー）にて、「SORACOM × アウトドア・スポーツでどんなIoTができる？」というセッションが開催。雑誌『Triathlon LUMINA』を立ち上げ、自らもトライアスロンを楽しみ、毎年世界各地のIronMan（スイム3.8km、バイク180km、ラン42.195kmの鉄人レース）に参加しているSEAOS松島が出席しました。

IoT(Internet of Things)は、世の中のあらゆるモノをインターネットでつなげる技術のことで、今回のセッションでは、「アウトドアスポーツとIoTがつながることで何ができるのだろう」というテーマのもと、IoTとスポーツ





の可能性を探るディスカッションが行われました。ディスカッションでは、SEAOSが取り組んでいる次世代ロジスティクスの研究開発を応用した市民スポーツ向けの新しいメディア（双方向型レース中継）と選手の安全性を高める運営システムを紹介。今年のトライアスロンシーズンで実証実験を行うことを発表しました。

松島発表内容（抜粋）

「トライアスロンにSEAOSのIoTの技術を用いることで、中継が難しいとされるトライアスロンレースを、まるでF1レースを見ているかのような臨場感で、リアルタイムで中継を楽しめるようになります。応援している選手が今何位でどのあたりを走っているのか、ケイデンス（ペダルの回転数）や心拍数なども生のデータを見ることができ、観戦者が楽しめるだけではなく、レースに出場している選手の安全面でも大きな役割を果たします。GPSと空撮ドローンで選手の位置情報を常に把握できるので、万が一事故が発生した場合など、早期発見につながることを期待されます。今まではプロ競技でないとできなかったことが市民スポーツへ広がることで、2020年東京五輪に向けてIoTが担う役割はこれからさらに大きくなります」

Lumina Triathlon x IoT = Exciting and safety

トライアスロンとIoTがつながると……

- 選手 レースの記録が残せて楽しい！
- 観客 心拍データなどで手に汗握るレース観戦！
- 主催者 運営費削減、メディア収入、安全性向上

⇒ レースがどんどん盛り上がる！！

© Green Inc. 2016. All Rights Reserved. Private and Strictly Confidential. <http://www.seaos.jp/> - 2 -

講演の詳細はこちら

<http://ascii.jp/elem/000/001/142/1142569/>

<IoT&H/W BIZ DAY by ASCII STARTUP>

主催 アスキー

開催日 2016年3月28日開催

ハードウェアやIoTプロダクト関連のスタートアップ関連事業者を中心とした、ビジネスセミナー・展示交流会。

「SORACOM×アウトドア・スポーツでどんなIoTができる？」をテーマに、SORACOM、ソニー、SEAOS、SAPの4社がパネルディスカッションを実施。